

地理歴史科（世界史 A）学習指導案

授業者：

指導教員：

日時：令和3年10月30日（土） 第1限（8：50～9：40）

学級：第1学年C組（男子13名、女子15名、計28名）南館3階

1. 使用教材

世界の歴史 改訂版 世界史 A（山川出版社）
グローバルワイド最新世界史図表 四訂版（第一学習社）
資料プリント
プリント教材（自作）

2. 単元の指導計画

近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立
アメリカ独立革命（計3時間）
北アメリカ植民地の形成（1時間）
アメリカ合衆国の独立（本時）
合衆国憲法の制定（1時間）

3. 単元の目標

アメリカは今でこそ世界の中心で大きな存在というイメージであるが、実は国の歴史としてはそう長くはないことを知り、13植民地成立から独立戦争を経てアメリカ合衆国が成立するという過程を理解する。また、当時の出来事が現在のアメリカに対して抱くイメージとも関わっているということに気づき、世界史は単なる遠い過去のものではなく繋がりがあることを実感し、世界史学習への意欲を高める。

4. 本時の目標

【知識・技能】独立戦争の流れに関する基本的な知識を身につける。独立宣言の資料を読み、ロックの抵抗権(革命権)が反映されている箇所を抜き出す。

【思考・判断・表現力】なぜ植民地側が強国イギリスに勝利できたのかを考える。

【学びに向かう力・人間性等】歴史から現代の世界に目を向ける姿勢を身につける。

5. 生徒観

本学級の生徒は明るく元気である。授業に対する姿勢でも、その持ち前の元気の良さが発問等への反応によく表れている。学級全体で仲が良く、比較的発言しやすい雰囲気のある学級だと言える。元気の良さ、反応の良さが裏目に出て、授業の内容から逸れてしまうことには注意したい。また、世界史が得意な生徒もいるものの、2年生から理系に進む生徒が多く、世界史に対する苦手意識も少なからずあるようだ。

6. 教材観

レキシントンとコンコードで武力衝突し独立戦争が開始したが、13 植民地は国王派、中立派、愛国派の3つに分裂していた。そこで、トマス＝ジェファソンによる独立宣言とトマス＝ペインによる『コモン＝センス』が出され、独立に対する気持ちを後押しした。さらに、フランクリンによるヨーロッパ遊説は、ヨーロッパ諸国が独立軍側で参戦することを促した。ヨークタウンの戦いで勝利をおさめるが、フランスをはじめヨーロッパ諸国の参戦が強国イギリスに13 植民地が勝利できた理由である。パリ条約でミシシッピ川以東のルイジアナを獲得し、13 植民地とミシシッピ川以東のルイジアナが最初のアメリカ合衆国となる。

7. 指導観

苦手な生徒にとって世界史は流れが分かりにくい科目であるため、注目すべきポイントを初めに提示し、授業の展開をイメージさせる。できる限り一つ一つの語句の説明を簡単にし、さらに語句と語句の間を埋める説明ではつながりや流れを意識することを心がけたい。ポイントに沿って、発問や復習を取り入れ、生徒との対話を大事にし、ただ聞くだけの授業にならないように留意する。

8. 評価の観点

【知識・技能】独立戦争の流れに関する基本的な用語がわかる。独立宣言の資料を読みロックの革命権(抵抗権)を抜き出すことができる。

【思考・判断・表現力】諸国の参戦理由も踏まえながら、なぜ植民地側が強国イギリスに勝利できたのかを説明できる。

【学びに向かう力・人間性等】歴史から現代世界の理解に繋げ、意欲的に学ぶ。

9. 本時の指導計画

段階	学習内容（指導内容）	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 7分	<p>復Q 関係が悪くなった原因として何が考えられた？</p> <p>復Q 茶法に反対して起こった事件は？</p> <hr/> <p>Q 2月の祝日・イベントクイズ</p> <p>→建国記念の日から独立記念日に繋げる</p> <p>○注目ポイントを伝える</p> <p>①植民地の状況変化</p> <p>②強国イギリスに勝てた理由</p>	<p>復A 重商主義政策や課税の強化(印紙法、茶法)</p> <p>復A ポストン茶会事件</p> <p>バレンタイン、節分、天皇誕生日、建国記念の日で思いつくものを答える</p>	<p>・テンポよくあてていくため、列で指名する</p> <p>・ノート等を見返しても良いことを伝える</p> <p>・質問や説明が早くならないよう注意する</p> <p>・プリントに記入させ、ポイントを意識させる</p>
展開 38分	<p>・第一回大陸会議 @フィラデルフィア(友愛の町)</p> <p>・レキシントンとコンコードで武力衝突</p> <p>→独立戦争開始</p> <p>Q レキシントンとコンコードの戦いの位置を資料プリントの地図から探してみよう。それはどこの植民地にある？</p> <p>Q ポストン茶会事件に対してイギリスが閉鎖したポストン港はどこの植民地にあった？</p> <p>→マサチューセッツ植民地は独立の主張が強く、本国に対する対決意識が強い</p> <p>・アメリカ総司令官：ワシントン(第二回大陸会議で選ばれる)</p> <p>Q マサチューセッツ植民地の人々は独立の気持ちは強いが、他の植民地の人々とは団結していたか？</p> <p>・13植民地の状況</p> <p>国王派(忠誠派)、中立派、愛国派</p> <p>→3分の1ずつくらいで分裂</p>	<p>・地図を見てチェック</p> <p>→マサチューセッツ植民地</p> <p>・前回の授業を思い出して答える：マサチューセッツ植民地</p> <p>・二択で挙手</p> <p>・戦争開始当初は分裂状態だったが、独立宣言と『コモン=センス』により独立への気持ちは後押しされたという一連の流れを理解する</p>	<p>・資料プリントを忘れた人は近くの人に見せてもらうように指示</p> <p>・ノート等を見返しても良いことを伝える</p> <p>・ポストン茶会事件での対立によりマサチューセッツ植民地の人々は独立への気持ちは強いことを強調する</p> <p>・いずれかに挙手するよう指示</p> <p>・独立宣言や『コモン=センス』により独立への機運が高まったことを理解させる</p>

・独立宣言 @フィラデルフィア
 起草者：トマス＝ジェファソン
 (第3代大統領となる)

ロックの影響
 →ロックの思想について説明
 独立宣言の資料から、ロックの革命権(抵抗権)が影響している部分を探す

・『コモン＝センス』
 トマス＝ペイン
 →独立の必要性和共和国建設を主張

Q 共和政とは？国王などの君主がいる政治体制か？

・フランクリン(科学者でもある)

サラトガの戦いに勝利後、各国、義勇軍の参戦

Q なぜフランスは植民地側についた？

→イギリスと不仲(フレンチ＝インディアン戦争などでの敗北)

・フランスの親戚であるスペインも参戦

Q オランダはなぜ植民地側？

→イギリス＝オランダ戦争

・ロシアのエカチェリーナ2世による武装中立同盟(スウェーデン、デンマーク、プロイセン、ポルトガル)

・義勇軍

ラ＝ファイエット(仏)、

Q ポーランド分割に抵抗した人は？

・資料を読み、ロックの革命権の影響を受けている箇所をチェックする

・国王などの君主がおらず、国民の代表を選んで政治が行われることを理解する

・予想される回答
 イギリスが嫌い、アメリカの強さに見込みがあった、イギリスと戦いたい

・予想される回答
 イギリス＝オランダ戦争のりベンジ

・武装中立同盟とは、イギリスの海上封鎖に対して、アメリカとの貿易継続の自由を主張するために結成されたものであることを理解する

A コシューシコ

ロックの革命権の内容が独立宣言にどのように反映されているのかを理解させる

・机間指導

・白人のみということに注意し、独立宣言では先住民や黒人の権利は守られていないことに注目させる

・避雷針の発明でも知られることを説明

・サラトガは地名

・フランスはイギリスとの度重なる植民地争いなど対立関係にあった

・スペイン継承戦争後スペイン＝ブルボン朝が始まったことを思い出させる

・啓蒙専制君主とは、国の発展のために必要な技術を取り入れて、国王主導で近代化を目指す君主であることを確認させる
 (他に、フリードリヒ2世、ヨーゼフ2世)

・ラ＝ファイエットはフランス革命で活躍した人物

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨークタウンの戦いに勝利し、植民地軍側の勝利が決定的 (ヨークタウンは最初の植民地にある) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Q なぜアメリカは強国イギリスに勝つことができたのか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・パリ条約 →ミシシッピ川以東のルイジアナ獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される回答 ヨーロッパ諸国が助けてくれたから、イギリスには味方がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・コシューシコについては、既にポーランド分割に抵抗した人物として学習済みであることを確認させる ・中立派が愛国派に動いた ・フランクリンの遊説などによりヨーロッパ諸国が支援し、イギリスは孤立したことを理解させる
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図を用いてミシシッピ川以東のルイジアナを中心に植民地の変遷をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争ごとに変遷する植民地についてプリントの図に書き込み理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問がないか確認する

本時の授業にお越しいただきありがとうございました。

本授業のご高評をよろしくお願いいたします。

